

# ついて学んだ夏



窓ガラスに貼られた  
沖縄戦や米軍基地の写真

## 耳原総合病院「平和のつどい」

### 「命(め) どう宝(たから)」沖縄を忘れない

9月4日、みみはらホールで「平和のつどい」を開催し、毎年夏に職員が参加している原水禁止世界大会の参加報告会と、沖縄戦の体験者・海江田登美子さんの学習講演を行いました。日本国憲法の平和主義の原点と「命(め) どう宝(たから)」という言葉を、ナガサキの被爆と沖縄県民の4人にひとりが増えたともいわれる沖縄戦の2つについて学ぶ機会となりました。



海江田登美子さん

海江田登美子さんが沖縄戦を体験されたのは小学校2年生の7歳の頃のこと。1944年秋のサイパン島の陥落以降、徐々に沖縄に戦火が及び寄るなかで、那覇市が空襲に遭われて間もなく最初の避難生活に。那覇市から徒歩で百数十キロ、沖縄本島北部へ家族とともに避難されたと言います。

軍の爆撃を避けようと駆け込んだ壕(ガマ)は、避難者で満杯、仕方なくそこを離れて別のところへ避難していると、今しがた駆け込んだガマの辺りに大型の爆弾が落ち、多くの方が一瞬で亡くなる瞬間を見たとおっしゃいます。

その中を、当時7歳の海江田さんは、オハアらと再び徒歩で沖縄本島を北へ避難されたそうです。米

また、食料が十分ない中で、食うや食わすの避難、「いのちを救ってくれたのがカタツムリだった」の言葉は胸に突き刺さります。

7歳といえば、遊びたい盛り、食べ盛りの年頃です。そんな時に、ひもじい思いをしながら死と隣り合わせの避難生活、そして、たくさんの学友を失った経験はどんなに辛いものだろうかと思像しても、なかなか及ばないものがあります。それだけに、お話の最後に語られた「命(め) どう宝(たから)」という言葉、そして、いま進められている沖縄・辺野古基地建设阻止をきらめかないという言葉が重く響き、また、自分自身もお話を聞いただけで終わりにしてはいけないなと思いました。

「つどい」の最後に地域交流ソーンの階段踊り場の窓ガラスを、沖縄戦や米軍基地を撮った写真を加工したシールで飾るワークショップを参加者で行いました。病院に來られた時にはぜひ、階段踊り場に足を運んでみて、沖縄のことをしばし考えてみるきっかけにしてみてください。

(耳原総合病院 森 高志)

### 人権奪う核の恐ろしさ

#### 耳原鳳クリニック「原水禁止世界大会」報告会

原水禁止2019世界大会の参加者報告会を8月29日、耳原鳳クリニックで開催しました。参加者の懸橋龍治さんの報告です。

印象に残ったのは、2日目に参加した「青年のひろば」という分科会です。青年のひろばの目的は、被爆の実相を学び、核兵器をなくす意味をつかむことです。その中で、訪問、聞き取り、追体験、講演の4つのブロックがあり、私は聞き取りに参加しました。10人程のグループを作り、被爆者の方と直接、話をした後、グループトークをしました。被爆者の方(以後Aさんとする)

の話は、3歳の時に被爆し生き埋めになったのですが、蚊帳(かや)で助かったこと、当時のことをあまり覚えていなくて兄から話を聞いたこと(つどい)でした。また、他の被爆者の方に話を聞いたりと勉強されていました。その中でも(話を聞きに)いつても) 当時のことを思い出すのが嫌で門前払いをうけたこと、原爆の資料でさえも怖くて見れないということもあったそうです。

また、Aさんが苦労したのが結核(3人)です。

### 異文化コミュニケーション・カンファレンス

10月17日(木) 18時~19時30分 みみはらホール

#### 癒されながらつくっています~羊毛セラピー~

セーターなど私たちの生活に身近なウール。古来より羊は人間の生活に寄りそってきました。織物や羊毛についてのお話を聞いたあとは、手を動かしながら季節の小物を作りましょう!

講師：構井那央未(かまい なおみ)

嵯峨美術短期大学染織科、川島テキスタイルスクール専攻科入学。ジョリー・ジョンソン氏に羊毛フェルトの指導を受け、作品制作開始。個展開催やグループ展、クラフト展に出品。2006年「ハンドメイドギャラリーカフェYAIRA」をオープン。羊毛クリエイターとして全国各地で講習やワークショップを開催、ホスピタルアートを病院に提案・展示する「INPOアーツプロジェクト」参加など幅広く活動。

### シリーズ 現場からの視点 その51

耳原総合病院11階病棟は外科病棟で、乳腺・甲状腺外科では乳がん・乳腺炎症性疾患・甲状腺腫瘍の患者さんが多く入院されています。この病棟では乳がん患者会として「耳原 まんまの会」が活動を行っています。まんまの会は、乳がん患者ご

## 耳原 まんまの会

### 乳がん患者の交流・情報交換の場

乳がん患者の交流・情報交換の場。2009年に発足しました。今では会員数も50人を超え、乳腺・甲状腺医師1人・外科看護師スタッフ5人で活動しています。

活動内容は、会報の発行・新年会・夏の学習会・秋のお食事会やお楽しみ会・バス旅行・ピンクリボン運動への参加などです。

加・健康まつりでの乳がん検診チラシの配布などがあります。同じ思いを体験し、不安や悩みを乗り越えた先輩患者さんと、術後の悩みを抱えた患者さんとの交流や情報交換できる場を設けています。

さまざま患者さん同士が話をされ、交流することで元気をもらい、悩みを解決することができたりします。今年で10周年を迎えるまんまの会ですが、これからも一人でも多くの乳がん患者さんが、笑顔になれる一助となれるように、スタッフ・患者会のみなさんと共に一丸となり、盛り上げていきたいです。

※まんまとは、医療界で乳房を指します (11階病棟看護師)

## 理事会報告

### 8月度理事会(概要)

開催日時 8月29日(木) 午後6時~

出席理事24名、監事2名

#### ＜主な内容＞

- ◆報告
  - ・第20回理事会、拡大常任理事会及び各種委員会概要報告
  - ・健康友の会みみはら代表世話人会議、社保・平和まちづくりのとりくみ
  - ・無料低額診療の各事業所実績
  - ◆協議・確認事項
    - ・役員改選に関して、役員評議員選考委員会報告と次期の役員・評議員の構成と人物象についての中間報告を受けて、同仁会役員・評議員会の枠組みについて提案
    - ・副理事長および副専務理事の定数変更について、寄附行為の変更事項の提案
    - ・「監事」「非常勤理事」「評議員」報酬規程改定についての提案
    - ・高石ケアプラザセンターを鳳在宅介護支援センターへ統合する提案
    - ・評議員の解任と任命を各1名承認した。
  - ◆上記提案事項について出席理事全員が承認した。